そよかぜ

毎日新聞西部社会事業団だより

第115号　2023年３月

発行所　〒802－8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(公財)毎日新聞西部社会事業団
発行人　瀬尾　健悟
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail:s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替　01770-2-40213
ＵＲＬ　http://www.mainichiseibu-shakaijigyo.biz/

歳末助け合い

募金総額は953万円

毎日新聞社と毎日新聞西部社会事業団が呼びかけた２０２２年度の歳末助け合い募金「愛の義援金」の結果がまとまった。一般募金（社会福祉寄金）をはじめ東日本大震災救援金、小児がん征圧募金などの指定寄付を合わせて７７４件、９５３万９５４円が寄せられ、前年度を約48万円下回った。社会福祉寄金は、児童養護施設や母子施設、障害児施設で生活している子どもたちへの新入学・卒業プレゼントや福祉諸団体への助成金として活用、指定寄付は関係機関や団体に贈る。

「愛の義援金」は12月１～28日の約１カ月間募集。これまでに何らかの募金をいただいた方や歳末チャリティー展で作品をご購入いただいた方々などにチラシや振込用紙などを郵送、22年度は約４３００人に協力をお願いした。

募金は、さまざまな社会福祉事業の資金となる社会福祉寄金のほか、用途を指定した海外救援金（ウクライナ支援含む）▽小児がん征圧募金▽東日本大震災救援金▽毎日希望奨学金も並行して受け付け。毎日新聞紙上（12月１日付け）に社告を掲載、ホームページなどでも協力を呼び掛け、期間中に多くの善意が寄せられた。

集計した結果、件数は前年度より64件、額も約48万円減少した。このうち社会福祉寄金は４６０件で57件減少、額は約５４０万円で約56万円減った。海外救援金はウクライナ支援の寄託が多く、件数、額ともに増加。小児がん征圧募金、件数は微減したものの額が増えた。

また、コロナ対策医療支援金は４件・約12万円で前年を下回り、希望奨学金は件数、金額ともに減少。東日本大震災救援金は１件・20万円だった。

◆ご寄託は郵便振替０１７７０・２・４０２１３で毎日新聞西部社会事業団へ。よろしくお願いいたします。

お小遣いなどの中から集めた「愛の義援金」を届ける子どもたち

新入学・卒業祝い品プレゼント

62施設の415人に

当事業団では長年、歳末募金を基に児童養護施設や母子施設の子どもたちへの新入学・卒業祝い品プレゼント事業を行っており、今年度も福岡、山口両県の66施設を対象に調査用紙を配布。今春小学校に入学予定の子どもと中学・高校を卒業予定の生徒たちの人数や希望するプレゼントを調べてもらった。

その結果、対象者は62施設の３９４人であることが分かり、新入学児童にはランドセルやリュックサック（水筒付き）▽手提げ（筆箱付き）▽雨具セット▽図書カードのいずれか希望の品を、中学・高校を卒業予定の子どもたちには、目覚し時計か図書カードを贈った。

このほか、歳末募金の第二次配分として、山口県の共同募金会▽福岡県の交通遺児を支える会▽九州盲導犬協会▽福岡、北九州のいのちの電話▽北九州あゆみの会▽障害福祉ボランティア協会▽ホームレス支援の「抱樸」――の福祉８団体に前年度と同規模の活動助成金を贈る。

22年度歳末助け合い募金集計

	22年度		21年度		前年度比	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
一般募金	460	5,390,909	517	5,951,192	-57	-560,283
海外救援金	87	778,560	67	519,702	20	258,858
小児がん	91	889,460	94	724,302	-3	165,158
小計	638	7,058,929	678	7,195,196	-40	-136,267
東日本大震災救援金	1	200,000	2	160,000	-1	40,000
希望奨学金	131	2,150,025	146	2,327,421	-15	-177,396
コロナ対策医療支援金	4	122,000	12	330,000	-8	-208,000
合計	774	9,530,954	838	10,012,617	-64	-481,663

歳末チャリティー即売展

売上 前年を下回る

全国で活躍する一流作家の皆さんのご協力で実施している毎日新聞西部社会事業団の歳末チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」は、２０２２年12月第１～３週の土・日曜、山口、北九州（小倉）、福岡の３会場で順次開催。常連の方を中心に美術ファンが訪れたが、折からの物価高騰や寒波の影響も受け、３会場の売り上げ合計は約１１６０万円となり、前年を下回った。

今回は、12月３～４日の山口展（山口市の山口井筒屋催場）を皮切りに、11～12日が北九州展（小倉北区、小倉井筒屋新館パステルホール）▽18～19日が福岡展（福岡市中央区のアクロス福岡）だった。

全国の洋画家、日本画家、書家、名刹の高僧、陶芸家、工芸家、芸能人ら約５３０人から約９６０点の作品が寄せられた。これを３会場に振り分け、前年度までの寄贈作品と合わせて展示・即売した。各会場、一部の作品は入札方式で販売、２日目に集計して落札者を決めた。

より多くの方に来場してもらうため、チラシの作成・配布▽毎日新聞紙上での特集掲載▽各会場展直前に地方版で紹介記事▽テレビ局によるニュース放映▽事業団ホームページ（ＨＰ）での作品紹介▽ウェブ広告の掲載――を実施。さらに、毎日新聞読者以外へも情報を提供するため▽ツイッターでの呼びかけ▽HP上で新聞紙面に掲載した寄贈者名や出品会場などの紹介――を行った。

諸物価の高騰の中、今回３会場の売り上げ合計は、前回比で約70万円減少した。それでも、北九州会場は多くの来場者があり、売り上げは約６６７万円で、２年連続で６００万円を超えた。しかし、厳しい寒さで雨・雪となった福岡会場展は、客足が伸びず、１８０万円にとどまった。

即売展の売り上げから諸経費を差し引いた益金は、児童福祉や障害者福祉、高齢者福祉、交通遺児支援、ホームレス自立支援などの活動に取り組む団体などへの助成金など、さまざまな福祉事業に活用する。

お気に入りの作品を求める来場者（山口会場で）

第53回毎日社会福祉顕彰を募集

２０２３年度（第53回）の「毎日社会福祉顕彰」を募集している。全国の社会福祉関係の個人や団体の中から優れた業績をあげている３件を選び表彰する。

「学術」「技術」「創意」「奉仕」「勤勉」に加え、新しい分野を開き、時代のニーズに応える福祉活動をしている「その他」が対象。所定の用紙に、略歴や推薦の対象となる活動内容などを記入して、資料を必要とするものは添付して、５月31日までに〒８０２－８６５１（住所不要）毎日新聞西部社会事業団へ。自薦は無効。

厚生労働省や毎日新聞社の関係者、学識経験者と東京・大阪・西部社会事業団メンバーによる委員会で審査。結果は９月中旬の毎日新聞紙上で発表、受賞者・団体に賞金３００万円（１件につき１００万円）と賞牌を贈る。

詳しくは、各都道府県社会福祉協議会や当事業団にある募集要項を参照（当事業団のホームページからも入手可能）。

ツイッター使い

事業団情報発信

毎日新聞西部社会事業団では、各種募金の呼びかけや実施する事業などについて、ネット情報サービス「ツイッター」でもお知らせしている＝**写真**。

当事業団の活動は、一般募金（社会福祉寄金）を基にした社会福祉事業▽小児がん征圧募金や自然災害が発生した時の救援金などの実績、配分▽歳末チャリティー展に出品される作品や展示会場――などについて、毎日新聞紙面をはじめ団報「そよかぜ」やホームページ（ＨＰ）を使い紹介、報告している。

ただ、新聞紙面や団報では紙面に限りがあり、配布先も限定されるため、より広範に多くの情報を届けるためにはＨＰを利用している。ＨＰの利用で、時々の事業や話題はお知らせできるが、さらに幅広い世代に向け、「今お願いしている募金」「きょうスタートした事業」などについて知ってもらうため、ツイッターでの情報発信も始めた。

こうしたお知らせをスマートフォンなどで見て、若い世代の人たちを含むより多くの皆さんに当事業団の活動を知っていただき、お力添えをお願いしたい。

編集後記　◆歳末チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」は、山口、北九州、福岡の３会場で、多くの皆さんに作品をお買い上げいただきました。また、歳末助け合い「愛の義援金」でも、たくさんの方から浄財を頂戴しました。いずれも、当事業団が予定している社会福祉事業の資金として活用させていただきます。ご協力に改めてお礼を申し上げます◆今年度も作品輸送や会場設営などで、**中越輸送さん**▽**毎日メディアサービス山口さん**▽**毎日新聞西部アシストさん**に大変お世話になりました。ありがとうございます◆当事業団の活動は事業団だより「そよかぜ」のほか、ホームページやツイッターなどでもお知らせしています。今後も、これまで同様お力添えをよろしくお願いいたします。